

## 第 2 回 オイルは吸わせない

最近よく聞く私の中での流行語があります。それは、「ボールが曲がらなくなった!」です。

その方のボールを拝見させていただきますと、十中八九オイルまみれの状態になっています。手のひらでボールの表面を温めてあげると、そこからオイルがにじみ出てきて、もう滑ってしまうような、そんな状態です。

そんな状態になってしまったら、どうするのがよいのか。真っ先に思い浮かぶのが「オイル抜き」かと思えます。

ボールが吸ってしまったオイルを専用の液で吸い出し、再びオイルを吸える状態に戻すメンテナンスです。

しかし、このオイル抜きは「ボールの表面に近い部分のオイルを吸い出してくれる」という点に注意が必要です。

すなわち、投げ続けて奥まで浸透してしまったオイルまでは取ることが困難なのです。

ここまでくると、オイル抜きをするよりも、新しいのに乗り換えたほうが経済的かと思えます。

ということですが、今回はボールの奥までオイルを吸わせず、寿命を長持ちさせる個人的おすすめ方法を記載していきたいと思えます。(といっても、多少は吸いますので「注意を」)

まず1つ目ですが、ボールをよく見て、オイルがついている部分をしっかりと拭くということです。

右利きの方は穴の左側にオイルのラインが付くと思えますが、そこをしっかりと拭きとれるかが重要です。

ボールにオイルが付着している時間が増えるほど、吸って

しまえる時間があるということですので、適当に拭いたつもりではあまりよくない事がおわかりでしょう。

そして2つ目ですが、これが結構重要で、「しっかりとオイルがとれるタオル」でボールを拭くということです。

センターにおいてあるタオルですが、正直オイルをあまり拭き取れません。薄く伸ばしているともいええます。

ボールからいかに効率よくオイルを引きはがせるかが勝負ですので、プロショップにもあります「マイクロファイバータオル」や「ハイパークロス」、「シャミーパード(皮)」といった性能のよいタオルをぜひとも使ってください。

最後に3つ目として、ゲーム後のボール清掃時、クリーナーをボールが湿るくらい大量に行うということです。

ボールには見えない溝がたくさんあり、ゴシゴシしただけではオイルは取れません。一度溝にクリーナーを浸透させ、浮き上がらせてから拭くというのが正解です。

これらを毎回しっかりと行い、ボールがギトギトしてなくても50ゲーム毎にオイル抜きをしてあげれば、ボールの寿命はだいぶ長くなります。

<筆者>



猫をこよなく愛し  
猫に愛されたい  
とあるポウラー

<好きなもの>  
にゃんこ